

者との意見交換が必要と考えるかどうか。

A 市民交流プラザのホールやキッチンスタジオの利用については、平日の利用が少ないため、今後、音楽・文化団体などを含めた市内各種団体にもう少しPR活動をしなければならぬと考えている。



教育・文化・スポーツ

「黒丸踊」本拠地の法養堂の改築補助について

古閑森 秀幸 議員

Q 「黒丸踊」は、寿古・沖田・黒丸の各地区に伝わる「郡三踊」のうちの1つであり、平成26年3月10日には国指定重要無形民俗文化財に指定された。現在、活動拠点となっている法養堂は老朽化し、練習等の活動に支障をきたしている。改築等に対して、どのような助成があるのか尋ねる。

A 法養堂の整備については、国の補助金が新築には適用されないため、ほかに助成等がないか研究したい。また、法養堂を新築する場所や規模等についても、保

存会の方と協議しながら、どのような支援ができるのか協議していきたい。

総合教育会議の めり方について

宮田 真美 議員

Q 教育委員会制度の改革により、市長が招集する総合教育会議が開催され、教育大綱が策定されることとなった。今後、総合教育会議を開催する上で、教育委員会の独立性や合議制を維持していくためには、教育委員会側の姿勢が重要になってくると思うが、教育長はどのように考えているのか尋ねる。

A 教育委員会の独立性や合議制の維持については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、教育委員会の権限というところでつたわれており、合議制の機関である教育委員会で決めたことを、法律上市長は覆すことができない。しかし、今後の教育行政においては、お互い反発するのではなく、いいものはいい、悪いものは悪いという形で取り組むことが望ましいと考えている。

市民会館解体後の ビジョンを問う

村崎 浩史 議員

Q 来年3月に大村市民会館は閉館し、解体される。市民会館は年間10万人を超える利用者があり、大村市民にとっては文化・芸術の中心地である。市の財政は厳しいが、市民会館に代わる新たな文化ホールは必要だと考える。市長は、新たなホールを建設する意思はあるのか。また、その結論を出す明確な時期について尋ねる。

A 市長として、新たな市民会館をつくりたいという基本的な考えは持っているが、40億円程度かかる事業であるため、来年3月まで議会や市民に十分議論していただき、御意見をお聞きしたい。また、内容や方向性等については、平成28年度中にはつくり上げたいと考えている。

急げ！新設も含めた 小・中学校の再編整備

神近 寛 議員

Q 市内の小・中学校の規模には大きな差があるが、学級数の基準があるのか。また、学校は地

域コミュニティの中心的存在ともなっていることから、適正規模化に向けた再編整備を急がねばならない。特別転入学制度の拡充や学校選択制の導入を始め、学校の新設も視野にPTAなども含めた検討会を設けての対策を提案する。

A 学校規模の標準については、小中学校とも12学級以上18学級以下である。また、学校規模の適正化に向けた再編の検討会の設置については、教育委員会だけではなく、市の各施策にも関係するため、庁内での協議検討の場を設け、外部からの意見もいただくような形で進めていきたい。

中学校給食の供用開始時期 と方法について

園田 裕史 議員

Q 市政一般質問において、市長が繰り返される「着手する」という答弁では、供用開始時期が曖昧である。供用開始となる時期を明確にすべきである。更に、給食に関するアンケートを幼稚園や保育園、小中学生の保護者、児童生徒を対象に実施し、最新のニーズを把握した上で、開始時期の前倒しや財源の確保策、提供方法に